宗像

毎月十五日発行
発行所
宗像大社
宗像会
〒811-3505　福岡県宗像郡玄海町
電話 0940－62－1311㈹
定価 一年送料共 1000円

平成十一年・己卯（つちのとう）
新春を迎えて

宮司　太田可愛（よしのり）

清々しい平成十一年の新春を迎え、謹んで皇室の弥栄と国家の安泰、併せて氏子・崇敬者皆様方の益々の御繁栄と御健勝を心よりお祈り申し上げます。

旧年中は、氏子・崇敬者皆様方の真心からなる御協賛のお蔭で、当大社恒例の諸祭儀が滞りなく斎行されましたことに対し、深く感謝し厚く御礼申し上げます。

昨年は異常気象に見舞われ、東日本に気圧の前線が長期間停滞し豪雨と長雨で関東以北の各地に水害や土石流による災害が発生しました。また遅く発生した台風の進路に当たった京阪神地方の社寺は、倒木のため社殿や堂塔、伽藍に被害が出ました。

被災地が一刻も早く復旧されます様願って已みません。

当宗像地方は平穏に過ぎましたが、九月三十日、超大型台風の接近のため、翌十月一日、宗像六浦漁業組合の船団奉仕によるみあれ祭りは中止になりました。このため三十日、予てから御座船に選定されていた神湊漁業組合所属の健栄丸に時化模様の海上へ急遽出航をお願いし、同船は大島港から当社沖津宮・中津宮の神璽（みしるし）を奉戴、恒例の神幸航路を一隻で粛々と神湊港まで航行し、お迎えの神事を執り行いました。台風は予想を外れ朝鮮半島へ抜け、宗像地方は快晴となり当社秋季大祭は賑々しく執り行われました。

また、年末年始は当社に多数の車両が長蛇の列でお詣り頂いていますが、旧年中お斎りした当社守札のほかに、全国の社寺の守札を当社に納められる方々も多く、古札納所は満杯となり大倉庫の納所に移しています。

今までは一月に古札焼納祭を執り行い、ビニール製品を取りはずし風の無い日に焼納していました。しかし全ての化学製品を取り除くことは不可能で、時には黒煙朦々と燃え上がることもありました。

近年、既製の焼却炉では燃焼中、化学物質ダイオキシンが発生するので、地元の小中学校はその使用を禁止しています。当社では古札焼却中にダイオキシンなどの有害物質を発生させない焼却炉を予々検討しました結果この度独自の焼却炉を建設しました。

これは燃焼室を二つに分け、一次側では約八百度で燃焼させ二次側で更に千二百度まで高めて燃焼させる有害物質を大気中に撒き散らさない装置です。この焼却炉の稼働により無色無臭の焼却が可能となりました。

皆様既に御高承の通り、宗像大社は内陸にある辺津宮の他に、十キロの海を隔てる筑前大島に中津宮、更に北方五十キロに玄界灘の孤島沖ノ島が在り、この島の中腹に沖津宮が鎮座します。極めて広大な地域を領有するお社であります。

千五百年前の古墳時代、大和朝廷は対外交渉の進展と国家の隆昌を願って三宮で数え切れない程の祭りを行い、夥しい宝物を捧げました。沖ノ島から発見された十二万点にも及ぶ国宝、重要文化財は、日本歴史を明示し、学界に貢献するところ多大なものがありました。

現在でも全国各地の博物館・美術館から神宝の出展要請が続いています。

昨年は四月、九州国宝展が福岡市立博物館で開催され当社の金の指輪他三十四点が出陳され、八月には愛知県立陶磁資料館で唐三彩が展示されました。

今年は八月から東京サントリー美術館でカットグラス・ガラス玉類が、九月から東京国立博物館で金・銀製品が、更に同じく九月から群馬県立博物館で金銅製馬具が夫々展示されます。

当社神宝館には、沖ノ島祭祀奉献品と並んで重要文化財指定を含む多くの古文書を収蔵しています。宗像大社復興期成会が「宗像大社文書」として平成四年に第一巻を刊行し、以来同文書編纂に携わる各委員の尽力によって只今第二巻の校正が行われています。校了次第印刷に付され刊行の予定です。

この文書集が他と異なるのは、各文書ごとに釈文、読み下だし、注解、大意を掲げている点で、別冊として影印本を作製し計二冊を一巻としています。特に詳細な注解は、一つの論文を書くような労苦を要したと伺い、並々ならぬ努力が傾注されたことがうかがわれます。

また錦秋に相応しい西日本一といわれる当社菊花展は、第二十九回を迎えますが、これに併せて第三十五回全日本菊花連盟全国大会福岡宗像大会が宗像ユリックスで開催されます。この期間中に第八回国際菊花会議が開かれ、宗像は菊に包まれる事になります。何とぞ宜しく御支援賜りますようお願い申し上げます。

昨年の年末は異常に暖かい日が続き、大気の温暖化を切実に知るようになりました。大気だけでなく海洋河川、湖沼の汚濁が進み、之に加えて乱獲が生物資源の枯渇化を招き、種の絶滅が報告されています。

一方、世界人口は年々急カーブで増加しています。食糧問題や資源消費で、今までの貪欲な競争、経済至上主義、一人勝ち容認の社会は、やがて行きづまり、破綻するのではないかとの見方もあります。

日本人が大切に守ってきた自然との共生・「少欲知足」という東洋の心を見つめ直し、理念を転換し之に基づく社会システムの再構築が求められる時代に入ったのではないでしょうか。

今年は今上陛下が御即位十年の佳節を迎えられて、愈々発展する年であり、干支の己卯は陽気が地中から湧き出し茅が生い茂る様に万物が繁茂する様を表しています。卯の日は古来より邪悪を祓うめでたい日とされ、卯の日祭を行う神社もあります。

宗像大神の御神徳が遍く光被され、新しい卯の年が皆様にとって全てを祓い清める良い年でありますよう心より祈念して年頭の御挨拶といたします。

二月十一日には
国旗を掲げ
建国記念日を
祝いましょう

節分祭ご案内

新春を迎え、皆様方におかれましては益々御清栄のことと存じ上げます。

扨て、当大社恒例の節分祭を左記の如く斎行致しますので御参拝でさいますようご案内申し上げます。

記

一、日　時　平成十一年二月三日　午前十時
　　祭典終了後、豆打式
一、場　所　当大社祈願殿

平成十一年一月吉日

宗像大社社務所

各　位

一月二十四日～二月七日迄、厄除祈願祭を左記により終日執り行います。

記

一、祈願祭典場　於　儀式殿
一、祈願初穂料　一人　五〇〇〇円
一、授与品　福升一箇（福豆入一合）
　　厄除守札一体・開運守札一体

謹んで新年の御祝詞を申し上げます

平成十一年　元旦

宗像大社責任役員会
宗像大社氏子会
宗像大社沖中両宮奉賛会

宗像大社責任役員会

代表役員　太田　可愛
責任役員　出光　昭介
〃　大野　茂
〃　布江彌之助
〃　麻生　泰
〃　河野　幸人
〃　占部真太郎
〃　深田　幸夫
〃　髙原　文夫
〃　的場　重郎

宗像大社氏子会

会長　倉元　清彦
副会長　大森　芳喜
〃　佐藤　千里
〃　安部　照生
〃　麻生　久彦
監事　楠田　繁男
〃　黒石　満
〃　古屋敷清文
〃　島田　光男

宗像大社沖中両宮奉賛会

会長　佐藤　千里
副会長　古賀　理
〃　遠藤　三笠

宗像大社職員

宮司　太田　可愛
権宮司　神島　定
禰宜　升谷　勝良
〃　山田　幸雄
〃　石橋　清寿
権禰宜　堤　宏
〃　高向　正秀
〃　門司　成人
〃　渡辺　秀丸
〃　杉山　安彦
〃　宇都宮　勤
〃　伊藤　佳和
〃　葦津　幹之
〃　佐々木大治
出仕　中原　裕生
〃　御床　直之
非常勤　大野　宗康
学芸員　松本　肇
嘱託　東　弘
巫女　狩野　栄子
〃　高木　加良
〃　岡村　弥生
〃　山田あや子
〃　戸田真紀子
〃　松本　園美
〃　花田亜矢子
〃　山口　尚子
〃　占部　梢
〃　小田　妙子
〃　長尾　朋香
〃　前田　恵美
〃　篠原　智恵
〃　上野　明香
〃　佐藤　忍
〃　有村　佳子
〃　越智　友恵
〃　安部あかね
〃　竹本百合子
〃　花田　清己
〃　深田　仁
〃　井上　光生
〃　岩佐　光二
〃　原　カズ子
〃　広橋　康子
〃　阿部　和代
〃　吉武　洋子
〃　深田　進
〃　深田　重明
〃　力丸　正輝
〃　占部チヨカ
〃　吉武　徳江
臨時事務員　西野百合子
〃　吉武　律子
〃　橘　正信
夜警員　吉田　義秀
〃　堺　豊三郎
嘱託　藤川　宣重
〃　石井　忠
〃　河窪奈津子
講師　小方　百枝
〃　大野　展男

己卯・新年に祈る
正月社頭風景
＝辺津宮・中津宮・沖津宮＝

辺津宮

平成十一年己卯・午前零時前、空には十三夜の月が輝き星がまたいている。風は暖かい。境内は大庭燎の火に照らされ人波でうまっているがしずかである。話し声も足音もしない、不思議な時が流れる一瞬である。大太鼓が打ち響き、神門が左右に大きく開くと待ち構えていた人波がどっと動いた。

歳明けである。初詣での人波がそれぞれに神殿に進む中、新年の挨拶がかわされる。境内が一度に賑わい始めた、雅楽が流れホイッスルの音が飛び交う。今迄の夜空の輝きが嘆って見える。時の流れが新年になったのだと身に感じる初詣風景である。

大社境内を道路沿いの釣川土手より見る。入口左右の県道、大駐車場前の信号機を中心に十文字に結ばれ町道迄、車の列が長く続きライトに輝く風景は正月に見る美しい十文字ライト絵が目に入る。

周囲が田んぼである為、浮暗に浮ぶこの光の列はほんとうに美しく感じる。正月三ヶ日の参拝者数は約四十二万人と発表された。車輌も十万台余と云う。

初日は少し雲がかかっていたが、美しく山端に拝む事が出来た。二日に一時小雨が降ったものの、三ヶ日はおおむね好天に恵まれ、社頭は多くの人波で混み合い、参拝車輌の列が終日続き境内は賑わった。

四日以降は各企業・団体の参拝が相次ぎ、やがて節分を迎え立春と歳月が流れていく。

中津宮

中津宮の平成己卯元旦の幕開けは、昭和己卯元旦に奉献された燈籠の神々しい御明りの導きにより開けた。

燈籠は東郷平八郎元帥が揮毫した「神光照海」の文字が彫られており、昭和十四年元旦より中津宮拝殿前に据えられ、「神光照海」の文字通り、宗像大神の御光の如く照らしつづけて、今年は満六十年の還暦の目出度い年となった。

元旦、午前零時、開門と同時に村内氏子の人々が燈籠の御明りに導かれ神前にすすみ新年の参拝を行った。

社頭では「新春福みくじ」で今年の運勢を試す人々の長い列が出来るなど大いに賑った。

新年二日、早朝より同年講の厄除・厄晴れの祈願祭で境内はごった返した。午前十一時には大島村恒例の成人祭が斎行され、今年成人となった男子七名、女子四名が参列。又大島村杉田村長、大島村議長並父兄等関係者が参列し祭典が行われた。祭典は祝詞奏上による奉告につづき、成人者代表として男女二名が成人としての志を玉串に込め神前に捧げた。つづいて杉田村長、議長並父兄代表が玉串を捧げ神恩に感謝し、又これからの大島村発展の担い手としての活躍を祈り神前に額づいた。

三日、午前十一時、元始祭並大漁祈願祭を斎行。佐藤奉賛会長、平田大島漁協組合長外多数参列のもと祭典が行われ、皇室の弥栄、又今年の大漁・海上安全を祈念し祭典は終了した。

中津宮の新年三ヶ日は、穏やかな日和に恵まれ、境内は村内氏子、同年講で里帰りした人々の語りや、成人祭の華やかさで賑った。

沖津宮

"高どのの
うへよりみればうつくしく
朝日にほゆる沖のはつしま"

（この和歌は昭和十四年己卯）昭和天皇が熱海市の初島を詠まれた御製であるが、沖の小島の描写はさながら当社の御神島「沖ノ島」より初日を望む様な気持がする。

玄海灘の孤島沖ノ島の元旦は、奉仕神職一名で迎える事が多い。平成十一年の元旦も一人で美しい初日を拝み、遠く南に九州の山陰を望み、西に壱岐の島影を見るしずかな日であった、と伝えて来た。

昭和の頃には、沖ノ島で正月を迎える漁船も多かったが近年では漁船の大型化と速力増強が進み、取りたての新鮮魚を市場に早く送る為、島で正月を迎える漁船もなくなって来た。

沖ノ島に"お高"と呼ばれる高どのがある。「お前の浜」と呼ぶ海水潔斎場より二〇メートル余高い処である。この高どのより望む海は遠望美しく、漁師達の漁場高見台地として永く利用された処でもあった。このお高よりさらに山中の石段六百余段を登った処に沖津宮本殿が鎮座されている。

船影一つ無い大海原に今年の平安と繁栄を祈った正月祭であった。

平成十一年　交通安全宗像大社の　御神徳をたたえ奉りて　1999

謹んで新年の御祝詞を申し上げます

福岡トヨタ自動車株式会社
取締役社長　金子宜嗣
福岡市中央区渡辺通4丁目8番28号　電話㈹761-3331

トヨタカローラ博多株式会社
取締役社長　久恒兼孝
福岡市博多区豊2丁目3番50号　電話㈹441-2111

福岡トヨペット株式会社
取締役社長　谷口敏
福岡市博多区東光1丁目6番13号　電話㈹411-1121

ネッツトヨタ北九州株式会社
取締役社長　卜部典明
北九州市八幡西区皇后崎町14番6号　電話㈹642-2111

トヨタカローラ福岡株式会社
代表取締役社長　畝地重幸
福岡市中央区長浜2丁目1番5号　電話㈹712-7111

トヨタビスタ福岡株式会社
代表取締役　喜多村浩司
福岡市中央区薬院1丁目5番8号　電話㈹714-6661

人へ。社会へ。地球へ。
TOYOTA
福岡県トヨタ販売店グループ

『師走のまつり』
古式祭・鎮火祭・大祓・除夜祭

〔古式祭・鎮火祭〕

師走の十三日・午前六時はまだ暗い。東山の空が白く輝き、まだ天空には半月が輝いている。

境内に響く大太鼓に合せ参進する浄衣の白影が浮び浅沓の音が大きく聞える。

太田宮司以下祭員と田島区長、江口区長を始め、関係者一同が参列し、この年の収穫感謝祭「古式祭」が斎行された。

この「古式祭」は約八百年の伝統がある神郡宗像の神嘗祭である。秋の収穫を神前に捧げ、神恩に感謝し、直会の「お座」で神々と食膳を共にする神事である。

「ゲバサモ」「九年母」「お菓子」と呼ばれる特種神饌が神前に捧げられる。祭典後清明殿に於て「お座」が開かれた。

午前六時半より一番座が催され　延命招福　のお座と呼ばれるこの御膳は午前十時頃まで続き約三百人の御座参加者が神人和楽の食膳に付いた。

又当日午前十時より〝鎮火祭〟が斎行された。宗像郡市消防団関係者、市町村消防役員三十余名が参列した。

鎮火祭とは〝び（ほ）しずめのまつり〟とも呼ばれ、古代・中世より続く火伏せの祭りで、拝殿上の祭壇で太田宮司、神島権宮司と一名の神職が古式ゆかしく火打石により忌火を鑽り、その火を、ひさごの水と赤土・川菜で鎮火する儀式が行われ各代表が安全を祈り敬虔な玉串拝礼を行った。

この鎮火祭後十五日頃より神郡の年末防火週間が始まり、正月に向って警察、消防関係官庁を始め、各方面であわただしい歳の瀬を迎える。

〔大祓式・除夜祭〕

平成十年師走晦日午後五時、当大社神門前に於て、師走の大祓式が斎行された。

一年三百六拾五日を一期・下期に分け年二回行なわれる大祓式は、上期を「茅ノ輪」をくぐり、農作物の豊作を祈り人身の健康、家内の安全を祈る「水無月の大祓」と呼び、下期を、「師走の大祓」と呼び、一年間の罪・けがれを祓って新年を迎える新たな神恩を祈る神事である。

神島権宮司の大祓詞が流れる中、神門前には続々と参拝者も参列され、長い列が出来た。自己祓の切ヌサが夕闇の風に舞う頃除夜祭も終り、神門は閉じられた。

新年を迎える準備も終り、境内はしずかに晦日を送っている。平成十年の歳・月・日を送る有難さを神に感謝している。天中には十三夜の月が美しく輝き、新年元旦の晴天を約束してくれる様であった。

日誌抄

十二月一日（火）
月次祭斎行午前十一時
太田宮司以下奉仕、焼却炉火入式斎行

四日（金）
古札焼納祭午後一時斎行
第五七期出光店主塾教育宗像大社研修終了

五日（土）
参拝・出光興産㈱徳山製油所澤田課長以下十四名

九日（水）
参拝・北海道石油共同備蓄㈱澤田一輝所長外三名

十一日（金）
参拝・宗像市郡特定郵便局長十五名

十三日（日）
古式祭・午前六時斎行
鎮火祭・午前十時斎行
参列・宗像地区市町村長、福岡県消防学校長、宗像地区連絡協議会、宗像地区消防本部、宗像地区防災協会、宗像地区消防団

十五日（火）
月次祭斎行午前十一時

十六日（水）参拝・福岡東芝エレクトロニクス㈱

十七日（木）
参拝・福岡県歯科医師会

十九日（土）
松尾神社竣工奉祝祭斎行午前十一時
参列、辰馬酒造・勝屋酒造・北筑社氏組合

二十三日（水）
天長祭斎行午前十一時
参列・倉元氏子会長以下地元総代

二十四日（木）
参拝・出光興産㈱中央訓練所山口所長以下三名

二十六日（土）
助勤学生八名本日より正月祭奉仕

二十八日（月）
参拝・福岡海上保安部新巡視船「はかた」副島船長以下五名就航奉告祭斎行

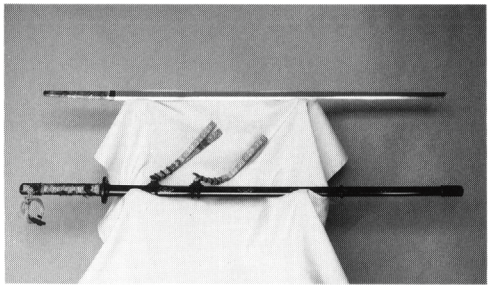
三十一日（木）
大祓式・除夜祭斎行午後五時太田宮司以下奉仕
参列・地元総代、職員
助勤学生、一般崇敬者二百余名

大社の奉納刀（一）

藤川仙寿

宗像大社には現在刀剣類は四十九振が保存されているが、この内明治廿五年の宝物帳に記載の刀は五十九振中十六振である。終戦時の混乱期に備前高平、則宗等の名だたる刀は失われており現存の多くは戦後の奉納刀である。

神宝館では常時十振余りを展示しており、伝来の明らかな刀から解説して行くことにする。奉納刀ではないが展示刀の中でも異彩放っているのが伊勢神宮の撤下神宝である。



和四十六年当社の本殿遷宮祭を機に当社の御親神をお迎えした伊勢神宮に、昭和四十年の式年遷宮の際奉製された御神宝の下付を、宗像大社復興期成会出光佐三会長及び宗像大社久保輝雄宮司の連名を以て願い出て特に許されて下付された撤下神宝の一つである。

伊勢神宮の撤下神宝の解説によれば、鋼霊福御太刀…刀身は月山貞勝、造り（外装）は佐藤省吾の作、神宝として奉献されていた間は錆止めとして金漆が塗られていた。御鋒……刀身は月山貞勝の作、金漆のままである、柄には銀平紋があると記されている。

刀工月山貞勝は奥州月山鍛冶の末裔と伝えられ幕末の名工月山貞吉から貞一（帝室技芸員）貞勝と代々続く名門である。貞勝は各宮家の奉剣（守り刀）等を造り刀身彫の上手であった、先の人間国宝月山貞一の親である事は有名である。

太刀は両切刃造りの直刀で刃長七八・八糎、身巾は物打ちで一・七糎、鋒元で二・四糎と細身である。鍛えは棟寄りに柾目心はあるが地景の良く働いた杢目肌で、月山鍛冶特有の綾杉肌はない、刃文は小沸出来の直刃を見事に焼き、鋩子（切先の焼き）は大丸ごころに浅く返って上手である。

式年遷宮の際には御装束、神宝はすべて人間国宝級の方々の手によって奉製されるが形状、紋様等は古代の様式をそのまま継承して今日に到っている。即ち今見る太刀、刀装具は千四百年前の姿そのものといえる。

平成十一年　1999

交通安全宗像大社の　御神徳をたたえ奉りて

謹んで新年の御祝詞を申し上げます

日産プリンス福岡販売株式会社
代表取締役　楠見記久
福岡市中央区平尾三丁目六番三号
電話㈹〇九二―五三一―九五六一番

社団法人　日本自動車連盟九州本部
本部長　金子宜嗣
福岡市早良区室見五丁目三番二七号
電話㈹〇九二―八四一―七六七六番

福岡ダイハツ販売株式会社
取締役社長　内山学
福岡市博多区東比恵四丁目一〇番二号
電話㈹〇九二―四一一―一三三〇番

第四五一回 宗像大社歌会詠草

大野展男 選

毎月25日〆切

田久井上　光
北風に逆らふ浜の蕎低し鋭く光るまなこ見ゆまで
（評）風と蕎の状態を描写した三句で一旦切って、改めて蕎の目の鋭さに焦点をあわせた技法は巧みである。

原町　八波　五月
傘寿過ぎ足弱ければ亡き夫の杖に散歩す同行二人
（評）一本の杖はそのまま黄泉の夫につながっているのである。同行二人と喫じた作者の気持ちは尊く切ない。

福間　池浦千鶴子
パソコンも携帯電話も使ふ子がマッチをすりて煙草のみをり
（評）パソコンも携帯電話も所謂文明の器である。それを日常に使いながら煙草にはライターならぬマッチを用いるとは、落差のあるコントラストの面白さをとらえた作者の目は鋭い。

名古屋　小田　留子
年賀状書く時だけの墨なれば数十年を使い続けぬ
（評）一本の墨を通して、折り目正しく控え目に生きてこられたであろう作者の姿がみえる。迎春にふさわしい一首である。

吉留　高山　信子
お守りの如持ちくるるわが手紙老いたる友を園に見舞えば
（評）出したことを忘れていたかも知れない手紙、それを見せられて老いた友を一段と愛しむ作者であろう。心あたたまる作品。

土穴　瀧口　敦子
マラッカの海峡に陽の沈みゆく椰子の並木を朱の彩に染め
（評）異国の雄大な夕景に気後れせずに見た感じを正直に詠っている。

在自　佐々木和彦
三試合捕手をつとめて全身にかきたる汗のすがすがしけれ

曲　天野　玲子
十年前渡りし川よ四万十の清流青し歴の中に

武丸　中村さつき
窓の外に楓の紅葉銀杏の黄数本ありて光りつつ散る

朝野　藤井　浩子
自己主張するにはあらず海沿ひに黄目立たせて石蕗咲けり

鐘崎　安永　久子
娘のくれし中國土産の化粧水朝夕皺をのばしてもみぬ

福間　中村　勇
山茶花に来し鵯は花びらをむさぼり食ひてわれに気付ず

城南ヶ丘　中間日出子
ひさびさに訪ねし島の変らねど出迎える父今はなかりき

日の里　石松　知子
知る人も稀になりたる古里の町並みをゆく旅びとのごと

田野　森　つるの
大祖父の植ゑしと聞く門先きの楓は美事に紅葉したり

名古屋　小田　喜一
あらたまの心昂ぶる初明り命満ちくる光おろがむ

田野　森　甲子
五日間の五重相伝の講義受けわが生かさるる幸せ思ふ

大島　越智　治子
神庭の銀杏の大樹ようやくに黄の色となり冬の日にうく

日の里　大和美由紀
見晴らしの良き西山の頂に光りて見ゆる福岡ドーム

自由ヶ丘　細川　絹子
山あいに展けし団地の屋根の波秋のひざしに時おり光る

八幡西　有吉　陽子
区画整理に狭き道にと変りゆき川に沿ぬて雑草茂る

日の里　石松　弘次
朝なあさな窓ゆ眺むるアカシヤの移ろう朱をカメラに収む

池田　小田　イセ
姉訪へば吾を忘れてたれと言ふ身も世もあらぬ恍惚の人

光岡　古森テル子
疎開せし最中にはぐれし幼子のはや六十路すぎ親をさがすも

光岡　竹浦　葛朋
釣川の中州に降りし白鷺等つくずくと見る凛冽の日に

光岡　四之宮多惠子
冷々とせし朝夕は季移定か年の瀬なりて気持先立つ

光岡　森田富佐子
先生も走り出すとう買物に急きて行きぬ師走の町へ

光岡　河村　久光
新年の門松たてて年賀書く友やうからの眼裏に顕つ

宗像大社年中祭事表

一月一日	元旦祭
一月二日	新年祭
一月三日	元始祭
一月十三日	献米奉告祭
一月十五日	成人祭
二月三日	節分祭
二月十一日	建国祭
三月十九日	松尾神社祭
三月二十一日	皇霊殿遥拝式
四月一・二日	春季大祭
四月二日	宗像護国神社祭
四月二十九日	昭和祭
四月三十日	沖・中両宮春季大祭
五月五日	五月祭・浜宮祭
五月二十七日	沖津宮現地大祭
七月十五日	祇園祭
七月三十一日	大祓並夏越祭
八月七日	中津宮七夕祭
八月十五日	護国神社戦没者追悼祭
	千灯明
九月一日	風鎮祭
九月二十三日	皇霊殿遥拝式
十月一日	海上神幸「みあれ祭」
十月一～三日	秋季大祭「田島放生会」
十月三日	宗像護国神社祭
十月十七日	表千家々元献茶祭
十月二十三日	沖・中両宮秋季大祭
十一月三日	明治祭
十一月十五日	七五三祭
十一月二十三日	新嘗祭
十二月十二日（日曜日）	**古式祭並鎮火祭**
十二月十九日	松尾神社祭
十二月二十三日	天長祭
十二月三十一日	大祓並除夜祭
毎月一日 十五日	月次祭

賀正

松尚開発株式会社
福岡国際カントリークラブ

池と赤松の三十六ホール

福岡県宗像市大字朝町
電話〇九四〇―三二―三五四四㈹

御礼

当大社恒例の大祓式斎行に当りましては、宗像市・郡内氏子各位並びに全国崇敬者の皆様より多数の人形をお寄せ戴き、お蔭を以ちまして、祭典は天候にも恵まれ滞りなく、盛大裡に斎行致すことが出来ました。ここに誌上を以ちまして謹んで御礼申し上げます。

平成十一年一月吉日

宗像大社
宮司　太田可愛

献米袋配布並に取纏め御礼

崇敬者各位

平成十年度、宗像大社献米奉告祭斎行にあたり、市・郡氏子会各位への献米袋配布並びに取纏めにつきましては年末年始お忙しい中、御奉仕を賜り厚く御礼申し上げます。

祭典は例年にもまして盛大厳粛に斎行致すことが出来ました。

ここに誌上をもちまして謹んで御礼申し上げます。

平成十一年一月吉日

宗像大社
宮司　太田可愛

宗像大社氏子会
会長　倉元清彦

宗像大社氏子会評議員
宗像大社氏子会総代　各位

賀正

玄海灘を望む風光明媚な
格調高いシーサイド・コース

西日本開発株式会社
玄海ゴルフクラブ

福岡県宗像郡玄海町
電話〇九四〇―六二―二三三㈹

平成十一年　新年おめでとうございます　1999

〇玄海国定公園の中心……風光明媚……生魚料理……宗像大社からバス5分…神湊旅館組合

魚屋旅館　電話〇九四〇―六二―二二二二番
魚屋別館　電話〇九四〇―六二―三三五五番
みなと荘　電話〇九四〇―六二―二二五五番
玄海旅館　電話〇九四〇―六二―〇〇〇一番
高嘉旅館　電話〇九四〇―六二―一二二一番
ニュー千鳥荘　電話〇九四〇―六二―〇〇六八番
リゾートホテル ユー倶楽部　電話〇九四〇―六二―三六三六番
松風荘　電話〇九四〇―六二―〇一二〇番
泉館　電話〇九四〇―六二―〇〇三五番
はま荘　電話〇九四〇―六二―〇五〇〇番
神湊スカイホテル　電話〇九四〇―六二―三八〇〇番
玄海ロイヤルホテル　電話〇九四〇―六二―四一一一㈹